

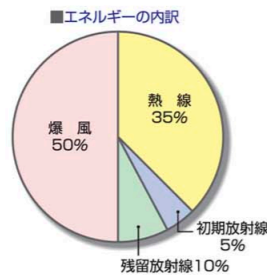
## 広島に投下された原子爆弾について

原子爆弾は、ウランやプルトニウムが核分裂するとき発生するエネルギーを兵器として利用したもので、通常の爆薬に比べるとはるかに大きな破壊力をもっています。さらに、核分裂の際に発生するガンマ線や中性子線などの放射線は、長い期間にわたり人体に深刻な障害を与えます。

広島に投下された原爆は、長さ約3メートル、重さ約4トン、開発当初の設計よりも短くしたためリトル・ボーイ(少年)と呼ばれていました。約50キログラムのウラン235が詰められていたとされていますが、このうちの1キログラムにも満たないものが瞬間的に核分裂し、高性能爆薬の1万6千トン分に相当するエネルギーを放出しました。

その内訳は、爆風(衝撃波)が50パーセント、熱線が35パーセント、放射線が15パーセントで、これらが複雑にからみあって大きな被害を引き起こしたのです。

強烈な熱線と爆風は、爆心地から2キロメートル以内にあったほとんどの建物を破壊し、焼きつくし、放射線による急性障害が一応おさまったとされる1945年(昭和20年)12月末までに約14万人の尊い命が失われました。



## 東館地下1階のご案内

### メモリアルホール

312席、車椅子席4席。被爆体験講話や講演会等の催しにご利用いただけます。



メモリアルホール

### 展示室(3)(4)(5)〈無料〉

「市民が描いた原爆の絵」や企画展の会場です。

### 情報資料室(土・日・祝日は閉室)

主に原爆・平和に関する図書を公開しています。平和データベースやインターネット情報の検索もできます。



展示室(3)



作者/小松キク



情報資料室



■開館時間：3月～11月 8:30～18:00 (8月は19:00閉館)  
12月～2月 8:30～17:00  
○入館は閉館30分前まで

■休館日：年末年始(12月29日から1月1日)

### ■観覧料

区分	個人	団体
大人(大学生以上)	50円	40円(30人以上)
小・中・高生	30円	無料(20人以上)

○土曜日は小・中・高生無料(ただし、祝日、春・夏・冬休み期間を除く)  
○小規模校で20人未満が学校教育活動で見学する場合も無料となります。  
○その他、原爆障害者章、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、65歳以上の者であることを確認できる公的証明書をご提示いただいた場合も無料入館できます。



### ■交通案内：JR広島駅(南口)から(約20分)

・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車  
・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「中電前」下車  
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車

### ■平和記念公園とその周辺案内図



### ◇ 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館もご覧ください。

原爆死没者を追悼するとともに、被爆体験記などを通じて、原爆被害の悲惨な体験に触れ、被爆の実相について理解を深めることができます。

#### 【平和祈念・死没者追悼空間】

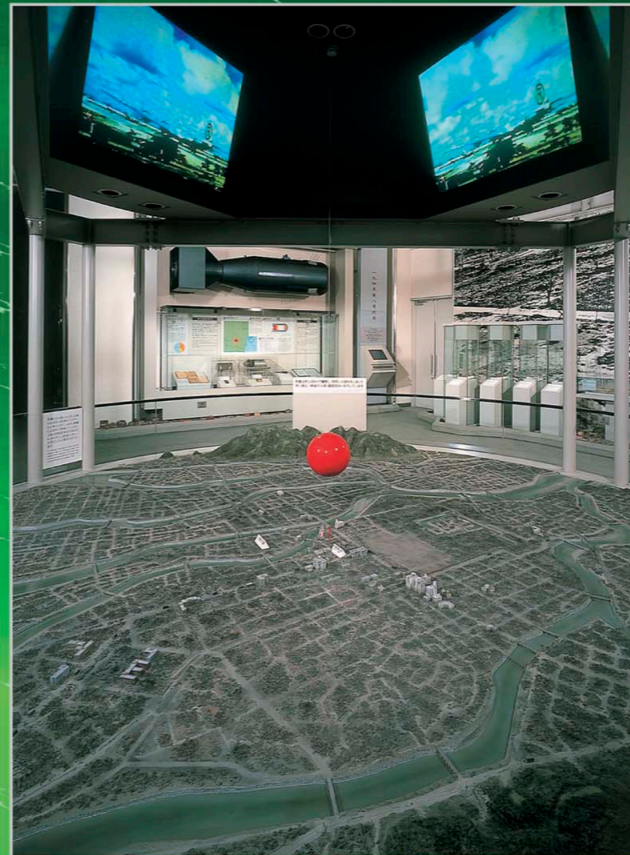


#### 【被爆体験記を読む】



# 広島平和記念資料館

## HIROSHIMA PEACE MEMORIAL MUSEUM



〒730-0811 広島市中区中島町1番2号  
TEL:082-241-4004 FAX:082-542-7941  
E-mail:hpcf@pcf.city.hiroshima.jp  
ホームページ:http://www.pcf.city.hiroshima.jp/

## はじめに

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。まちはほとんどが破壊され、多くの人びとの生命がうばわれました。かろうじて生き残った人も、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者がいまなお苦しんでいます。

平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の被爆前後の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。

資料の一つ一つには、人びとの悲しみや怒りが込められています。原爆の惨禍からよみがえったヒロシマの願いは、核兵器のない平和な社会を実現することです。

## 館内施設のご案内

### 常設展示室(東館1～3階、本館)

常設展示は東館・本館の2つに分かれています。東館の1階から入場して本館につながります。東館では被爆前と被爆後の広島の歩みを紹介し、本館では、遺品や被爆資料を展示して、1945年(昭和20年)8月6日、広島に何が起こったのかを伝えています。

### ビデオシアター(東館1階)

原爆記録映画『ヒロシマ・母たちの祈り』、『ヒロシマ・ナガサキー核戦争のもたらすもの』を日本語・英語で上映しています。(無料)

	ヒロシマ・母たちの祈り	ヒロシマ・ナガサキー核戦争のもたらすもの
1回目	9:30	10:05
2回目	11:00	11:35
3回目	13:00	13:35
4回目	14:30	15:05
*5回目	16:00	16:35



ビデオシアター

\*12月～2月までの間は、5回目の上映はありません。

### 音声ガイドの貸出(東館1階入口)

常設展示や、遺品等の詳しい解説が聴ける17か国語\*の音声ガイドを貸し出しています。(1台300円)

\*日本語・英語・アラビア語・中国語・フィリピン語・フランス語・ドイツ語・ハンガリー語・ヒンディー語・インドネシア語・イタリア語・マレー語・ポルトガル語・ロシア語・スペイン語・タイ語・ウルドゥー語



ミュージアムショップ

### ミュージアムショップ(東館3階)

原爆や平和に関する図書などを販売しています。

### ビデオコーナー(東館3階)

原爆・平和をテーマとしたアニメなどのビデオが視聴できます。(3ブース)

### 休憩所・売店(東館1階)

公園来園者のための休憩場所です。

## 平和学習のご案内

### 原爆展・平和学習用資料の貸出

資料館では原爆展や平和学習のための資料の貸出を行っています。(被爆現物資料、市民が描いた原爆の絵、写真/パネル、ポスター、ビデオ、DVDなど)

### 被爆体験講話等のご案内

修学旅行で広島を訪れた児童・生徒などを対象に、被爆者による被爆体験の講話と原爆記録映画の上映を実施しています。

●申込み・問い合わせ専用電話/082-541-5544(受付時間9時～17時)

## 常設展示のご案内

資料館は東館・本館の2つに分かれています。常設展示場は、東館の1階から入場して本館につながります。



**被爆者は語る**  
被爆者による証言を自由に見ることができます。

## 本館

本館では、遺品や被爆資料を展示して、1945年(昭和20年)8月6日、広島に何が起ったのかを伝えています。



**平和へのメッセージ**  
資料館を訪れた著名人のメッセージを展示しています。また、来館者が感想を記入する対話ノートも設けています。

## 東館(2~3階)

東館2~3階では核時代の現状や広島市の平和への取り組みについて模型や写真、パネルなどで紹介しています。

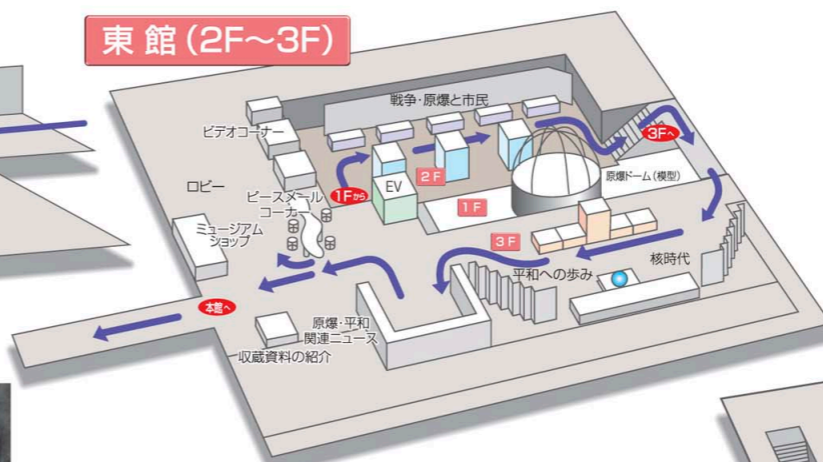


ビデオコーナー

### 戦争・原爆と市民

広島は、原爆投下によって、都市基盤そのものが奪われました。被爆者や原爆孤児はもとより、復員軍人や引揚者、疎開先から帰ってきた人びとなど被爆をまぬがれた市民も、家や職場を失いました。しかし、市民は被爆直後の混乱期、敗戦、占領下の大変動の中で、困難にめげず、生活の再建へと立ち向かいました。

## 東館(2F~3F)



### 平和への歩み

あまりにも悲惨な原爆の被害は、市民に、人類は今後核兵器と共存できないという考え方を根づかせました。こうした核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を求める「ヒロシマの願い」から、広島市の平和の歩みは世界へ向かって始まりました。原子爆弾は戦争で使われた兵器ですが、三たび大きく裂かせないためには、核兵器を地上からなくし、他国と戦わない決意が大切です。平和への歩みは、どんな小さなことでも、そこから始まります。



### 核時代

広島・長崎への原爆投下で世界は「核時代」に入りました。強力な核兵器で相手国を脅し、攻撃を思いとどまらせる核抑止論は、核大国の論理です。アメリカ、ロシアをはじめとする核保有国は、核兵器の威力を大きく飛躍させ、ミサイルなどの運搬手段や電子技術を発展させてきました。核軍縮が進んだ現在でも、多くの核兵器は存在し、ひとたび核戦争がおきれば人類は破滅の危機にさらされます。

## 東館(1階)

東館1階では、ガイダンスから始まり、被爆までの広島、原爆の開発から投下までについて模型や写真、映像、パネルで紹介しています。

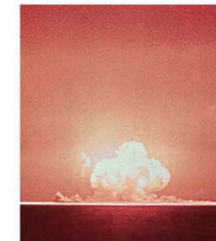
### 原子爆弾一開発から広島への投下まで

#### ●なぜ開発したか?

第二次世界大戦が始まった1939年(昭和14年)、アメリカは原爆の研究に乗り出しました。1942年(昭和17年)8月には「マンハッタン計画」と名付けられた原爆製造計画に着手し、1945年(昭和20年)7月16日、原爆実験に成功しました。

#### ●なぜ日本に投下することを決めたか?

日本の戦況が圧倒的に不利な中、アメリカは戦争終結手段として、日本本土上陸作戦、ソ連への対日参戦の要請、天皇制存続の保証、原爆の使用という選択肢がありました。こうした状況の下、原爆投下により戦争を終結させることができれば、戦後ソ連の影響力が広がるのを避けられ、また膨大な経費を使った原爆開発を国内向けに正当化できるとも考えました。

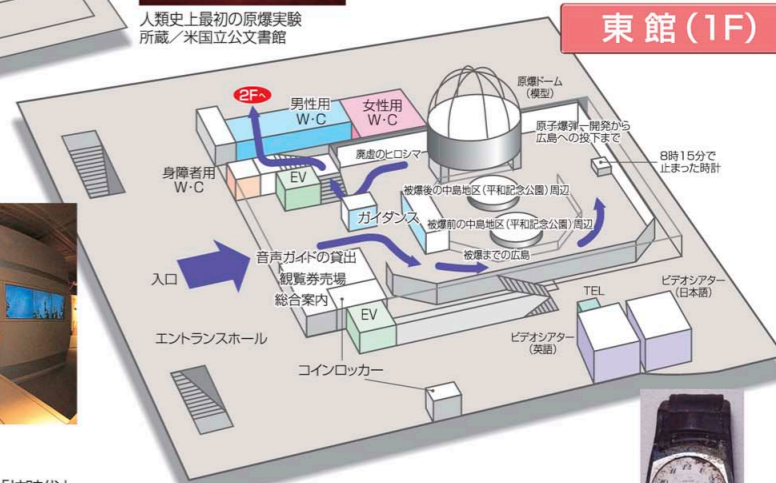


人類史上最初の実験  
所蔵/米国立公文書館

#### ●なぜ広島に投下したか?

アメリカは、原爆の効果を正確に測定できるよう、直径3マイル(約4.8キロメートル)以上の市街地を持つ都市の中から投下目標を選び、その都市への空襲を禁止しました。そして、広島、小倉、新潟、長崎いずれかへの投下命令を下しました。その後、広島を第1目標としたのは、目標都市の中で唯一、連合軍の捕虜収容所がないかと思っていたためです。

## 東館(1F)



### 被爆までの広島

広島は、江戸時代に城下町として栄えていました。明治以後、高等師範学校が開校し、学都として、また、陸軍の施設が集中し、軍都としても発展を遂げていました。被爆当時は約35万の人がいました。

### 8時15分で止まった時計

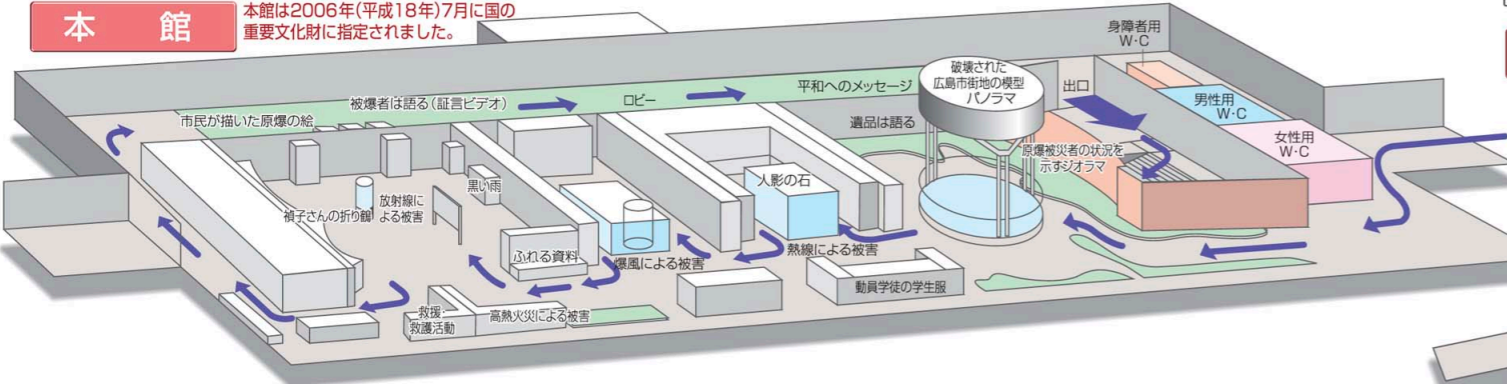
1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、世界で初めて原爆が広島に投下されました。核兵器という大量破壊兵器を手にしたことで、この時から世界は核時代に入りました。



寄贈/川越明人

## 本館

本館は2006年(平成18年)7月に国の重要文化財に指定されました。



**禎子さんの折り鶴**  
禎子さんは2歳の時に被爆し、10年後白血病と診断され、赤十字病院に入院しました。病気の痛みに耐えながら、健康の回復を祈って鶴を折り続けましたが、願いもかなわぬまま8カ月の闘病生活の後、短い生涯を終えました。  
寄贈/佐々木繁夫・佐々木雅弘



**白壁に残った黒い雨の跡**  
爆心地から3.7km爆発後、現在の広島市域の東側と北東側を除く市域のほぼ全域と周辺部で放射性物質を含んだ黒い雨が降ったとされています。  
寄贈/八島秋次郎



**爆風で折れ曲がった鉄扉**  
爆心地から2.7km寄贈/広島県

**人影の石** 爆心地から280m 周りの石段の表面が熱線によって白っぽく変化しましたが、人が腰掛けていた部分だけが黒い影のように残りました。  
寄贈/住友銀行広島支店

### 放射線による被害

原子爆弾の特徴は、通常の爆弾では絶対おこらない放射線の影響によって、人体に大きな障害が加えられたことです。特に、爆心地から1キロメートル以内に入った人は致命的な影響を受け、多くは数日のうちに死亡しました。被爆直後から短期間に現れた急性障害は、発熱、はきけ、下痢、出血、脱毛、全身のけだるさなど、さまざまな症状をひきおこし、多くの方が死亡しました。さらに、急性障害の後に発症する後障害として、ケロイドや白血病、ガンなどの病気が多くの被爆者を苦しめています。



**黒こげになった弁当**  
寄贈/折免シゲコ



**焼けこげた女子学生の夏服**  
寄贈/天下定雄



撮影/松重美人 所蔵/中国新聞社

### 遺品は語る

一瞬にして街のほとんどが壊滅し、多くの尊い生命が奪われました。そのなかには、建物疎開作業に動員された中学生や女学生など、作業現場に遺品を残しただけで、遺体はおろか遺骨さえ肉親の元に戻らなかった人々も多かったのです。ここに展示されている遺品の多くは、肉親の人たちがその安否を気遣って、焦土の中を探し求め、見つけれられたものです。これら一つ一つには、人びとの苦しみ、悲しみ、怒りが込められ、このような悲劇が繰り返されることのないよう、静かに語りかけています。

### 1945年8月6日

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、人類史上初めて原子爆弾が投下されました。原子爆弾は、市街地の上空約600メートルで目もくらむ閃光を放って大きく裂し、爆心地から2キロメートルにおよぶ市街地の建物が跡形もなく壊れ焼きつくされ、爆風や熱線などによって多くの人びとが亡くなりました。かろうじて生き残った人びとも、焼けてくたくたになったボロボロの衣服をわずかに身にまとい、瓦れきの街を逃げまどったのです。